

平成 24 年度入学試験

## 一 般 学 科 試 験

桐朋学園大学音楽学部

Ⅰ～Ⅱの各設問すべてに取り組み、それぞれの答えを解答用紙の所定の箇所に書きなさい。

### 注意事項

1. 問題用紙に落丁などある場合は、挙手をして申し出てください。
2. 退出は試験開始後 61 分経過してから可能です。ただし、終了時刻 5 分前以降の退出は、混乱を避けるために、認められません。
3. 終了時間前に退出する場合は、解答用紙の上に問題用紙を重ねて机の上に置き、挙手をして試験監督の許可を得て、静かに退出してください。

## I 次の国語課題の設問に答えなさい。

国語課題一 次の三つの文章は、僧侶となり放浪のなかで自由律俳句を詠んだ種田山頭火の随筆です。これを読んで後の問に答えなさい。

### 白い花

私は木花よりも草花を愛する。春の花より秋の花が好きだ。西洋種はあまり好かない。野草を愛する。

家のまわりや山野<sup>①</sup>溪谷を歩き廻って、見つかりしだい手あたり放題に雑草を摘んで来て、机上の壺に投げ入れて、それをしみじみ觀賞するのである。

このごろの季節では、蓼、りんどう、コスモス、芒、石露、等々何でもよい。何でもよさを持っている。

草は壺に投げ入れたままで、そのままでもいえないポーズを表現する。なまじ手を入れると、入れれば入れるほど悪くなる。

抛入花はほんとうの抛げ入れでなければならぬ。そこに流派の見方や個人の一手が加えられると、それは抛げ入れでなくて抛挿だ。

摘んで帰ってその草を壺に抛げ入れる。それだけでも草のいのちは歪められる。私はしばしばは「野におけ」の嘆息を洩らすのである。

人間の悩みは尽きない。私は堪えきれない場合にはよく酒を呷ったものである（今でもそういう癖がないとはいいきれないが）。酒はごまかす丈で救う力を持っていない。ごまかすことはアンイだけれど、さらにまたごまかさなければならぬ。そういう場合には諸君よ、山に登りましょう、林に分け入りましょう、野を歩きましょう、水のながれにそうて、私たちの身心がやすまるまで逍遙しましょうよ。

どうにもこうにも自分が自分を持てあますことがある。そのとき、露草の一茎がどんなに私をいたわってくれることか。私はソロモンの栄華と野の花のよそおいを対比して考察したりなんかしない。ソロモンの栄華は人間文化の一段階として、それはそれでよいではないか。野の花のよそおいは野の花のよそおいとして鑑賞せよ。

一茎草を拈じて丈六の仏（註：一丈六尺のあぐら姿の仏像）に化することもわるくないが、私は草の葉の一葉で足りる。足りるところに、私の愚が穩坐している。

死は誘惑する。生の仮面は脱ぎ捨てたくなるし、また脱ぎ捨てなければならぬが、本当に生き抜くことのむずかしさよ。私は走り出て、そこらの芒の穂に触れる。……

若うして或は赤い花にあこがれ、或は「青い花」を求めあるいた。赤い花はしぼんでくずれた。青い花は見つからなかった。そして灰色の野原がつづいた。

けさ、萩にかくれて咲き残っている花茗荷をふと見つけた。人間のザンニンな爪はその唯一をむしりとつたのである。

葉や株のむくつけきに似もやらず、なんとその花の清楚なことよ、気高いかおりがあたりにただよって、私はしんとする。

見よ、むこうには茶の花が咲き続けているではないか。そうだったか——<sup>2</sup>白い花だったか！

萩ちればコスモス咲いてそして茶の花も

### 草と虫とそして

いつからともなく、どこからともなく、秋が来た。ことしは秋も早足で来たらしい。

昼はつくつくぼうし、夜はがちゃがちゃがうるさいほど鳴き立てていたが、それらもいつか遠ざかって、このごろはおろぎの世界である。こおろぎの歌に松虫が調子をあわせる。百舌鳥の声、五位鷺の声、或る日は万歳万歳のさけびが聞える。夜になると、どこかのラジオがきれぎれに響く。柿の葉が秋の葉らしく色づいて落ちる。実も落ちる。その音があたりのしずかさをさらにしずかにする。

蚊が、蠅がとても鋭くなった。声も立てないで触れるとすぐ螫す蚊、蠅は殆んどいないけれども、街へ出かけるときと二三匹ついてくる。たまたま誰か来てくれると、意識しないお土産として連れてくる。彼等は蠅たたきを知っている。打とうとする手を感じていちはやく逃げる。いのち短かい虫、死を前にして一生懸命なのだ。無理もないと思う。

季節のうつりかわりにピンカンなのは、植物では草、動物では虫、人間では独り者、旅人、貧乏人である（この点も、私は草や虫みたいな存在だ！）。

蝗は群をなして飛びかい、田圃路は通れないほどの賑やかさである。これにひきかえて赤蛙はあくまで孤独だ。草から草へおどろくほど高く跳ぶ。

### 一匹とんで赤蛙

蟻が行儀正しく最後の御奉公にいそしんでいる姿は、ときどき机の上を歩きまわったり寢床を襲うたりして困るけれど、それは私に反省と勤勞を教えてくれる。

憎むべきは油虫だ。庵裏空しうして食べる物がなからでもあろうが、何でもかでも舐めたがる。いつぞやも友達から借りた本の表紙を舐めつくして、私にお詫言葉の繻蓄を傾けさせた。

あぶらむしほど又なく野鄙なるものはあらじ。譬へば露計りも愛矜なく、しかも身もちむさむさしたる出女（註：遊女）の、油垢に汚れ朽ばみしゆふべの寝まきながら、發出でたる心地ぞする。  
（風狂文章）

古人がすでに言いきっている。油虫よ、私ばかりではないぞ、怒るな憎むな。

げんのしようにこという草は腹葉として重宝がられるが、何とどうつましい草であろう。梅の花を小さくしたような赤い花は愛らしさそのものである。或る俳友が訪ねて来て、その草を見つけて、子供のために摘み採ったが、その姿はほほえましいものであった。

### げんのしようにこのおのれひそかな花と咲く

萩がぼつぼつ咲き初めた。曼珠沙華も咲きだした。萩の花は塵と呼ばれているように、曼珠沙華のように、花としてはさまで美しくはないけれど、何となく捨てがたいところがある。私は萩を見るたびにいつも故人一翁君（註：清水一翁。僧となつて各地を廻つた俳人。）を思い出す。彼の名句——たまさかに人来て去ねば萩の花散る——は歳月を超えて私たちの胸を打つ。

今日はあまりの好晴にそそのかされて近在を散歩した。そして荇萱を頂戴した。素朴な壺に投げこまれた荇萱のみだれ、そこには日本の単純の深さが漂うている。何の奇もないところに量ることのできないものがある。

露草の好ましさも忘れてはならない。まいあさ、碧瑠璃の空へ碧瑠璃の花、畑仕事の邪魔にならないかぎりはそつとしておきたい。

だんだん月が澄みわたってくる。芋が肥え枝豆がおいしくなるにつれて、月も清く明らかになる。とかく寢覚がちの私は夜中に起きて月を眺める。有明月の肌寒い光が身にも心にも沁み入って、思ひ出は果もなくひろがる、果もない空のように。

欲しいな、一杯やりたいな。——そんなとき、酒を求めないではいられない私は、亡き放哉坊（註：自由律俳人、尾崎放哉）の寂しい句をくちずさむ。——こんなよい月をひとりで観て寝る。

私にもひよいと戯作一句うかんだ。芭蕉翁にはすまないが。——  
一つ家に一人寝て観る草に月

## 道

いつぞや、日向地方を行乞した時の出来事である。秋晴の午後、或る町はずれの酒屋で生一本（註：まじりけのない酒）の御馳走になった。下地は好きなり（註：もともと酒が好きだ）空腹でもあったので、ほろほろ気分になって宿のある方へ歩いてみると、ぴこりと前に立ってお辞儀をした男があった、中年の、痩せて蒼白い、見るから神経質らしい顔の持主だった。

『あなたは禅宗の坊さんですか。……私の道はどこにありますか？』

私は或は路上問答を試みられたのかも知れないが、とにかく彼は私のソクトウに満足したらしく、彼の前にある道をまっすぐに行った。

道は前にある、まっすぐに行こう。——これは私の信念である。この語句を裏書するだけの力量を私は具有していないけれど、この語句が暗示する意義は今でも間違っていないと信じている。

句作の道——道としての句作についても同様の事がいえると思う。句材は随時随処にある、それをいかにハアクするか、言葉をかえていえば、自然をどれだけ見得するか、そこに彼の人格が現われ彼の境涯が成り立つ、彼の句格が定まり彼の句品が出て来るのである。

平常心は道、と趙州和尚（註：中国唐宋の禅僧）は提唱した。総持古仏（註：曹洞宗総持寺の開山・瑩山禅師）は、逢茶喫茶逢飯喫飯（茶ニ逢ウテハ茶ヲ喫シ、飯ニ逢ウテハ飯ヲ喫ス）と喝破された。

これは無論『山非山、水非水（山ハ山ニアラズ、水ハ水ニアラズ）』を通しての『山是山、水是水（山ハ是山、水ハ是水）』であるが、山は山でよろしい、水は水でよろしいのである。一茎草は一茎草であって、そしてそれは仏陀である。南無一茎草如来である。

道は非凡を求むるところになくして、平凡を行ずることにある。漸々修学から一超直入が生れるのである。飛躍の母胎は沈潜である。

所詮、句を磨くことは人を磨くことであり、人のかがやきは句のかがやきとなる。人を離れて道はなく、道を離れて人はない。

道は前にある、まっすぐに行こう、まっすぐに行こう。

（『山頭火随筆集』講談社学術文庫より）

設問一 〰〰〰部①〰〰部⑩の、漢字の読みを書き、カタカナは漢字に直しなさい。

設問二 本文中の〰〰部である次のア～コの熟語の意味を、後の語群から選んでその記号を書きなさい。

ア	穩座 <small>おんざ</small>	イ	蘊蓄 <small>うんちく</small>	ウ	野鄙 <small>やび</small>	エ	有明 <small>かっば</small>	オ	戯作 <small>げさく</small>
カ	行乞 <small>ぎょうこつ</small>	キ	具有 <small>きゆうゆう</small>	ク	見得 <small>けんとく</small>	ケ	喝破 <small>かつぱ</small>	コ	所詮 <small>しよせん</small>

A つまるところ。結局。

B 邪説を排し真理を解き明かすこと。

C 堅苦しい儀礼が終わってくつろいでいること。

D いやしく下品であること。

E 深く積み蓄えられた知識。

- F 夜があけて明るくなつてくるころ。  
 G そなえもっていること。  
 H たわむれに詠ずること。  
 I 僧が各家をまわつて食べ物やお金を受けに行くこと。  
 J 真理に対する正しい見解を得ること。

設問三——部1の『野におけ』というのは、播磨の俳人瓢水の句「手に取るなやはり野におけ蓮華草」の句の引用です。「『野におけ』の嘆息」が生じる理由を述べている部分（二文）の最初と最後の五文字を書きなさい。（句読点を含まない）

設問四——部2「白い花」は、何の花ですか。

設問五——部3「一匹とんで赤蛙」の句が「孤独」を表現しているのは、この句のどの言葉からですか。

設問六——部4で、あぶら虫が私に「私にお詫言葉の蘊蓄を傾けさせた」のは何故ですか。本文から答えなさい。

設問七——部5「芭蕉翁にはすまないが」とありますが、松尾芭蕉の「一つ家に遊女も寝たり萩と月」という『奥の細道』にある句を踏まえているからです。芭蕉も筆者も、ともに見ているものは何ですか。

設問八——部6「この語句が暗示する意義」とありますが、筆者は俳人としてこの「意義」をどうとらえていますか。それを述べている一文の初めと終わりの五文字を書きなさい。（句読点を含まない）

設問九——部7「南無一茎草如来」と同じ意味の言葉を、本文から漢字二字で答えなさい。

設問十——部8「漸々修学から一超直入が生れる」とありますが、「一超直入」と同じ意味を示している漢字二字の熟語を本文から抜き出して答えなさい。

国語課題二 次の①～⑤の「」にA～Eの語群から適当な言葉を入れてことわざ・慣用句を完成し、その意味をア～オから選びなさい。解答欄に記号で書くこと。

- ① 「」から出た錆さび
- ② 「」の上の瘤こぶ
- ③ 目から「」に抜ける
- ④ 暖簾のれんに「」押し
- ⑤ 目は「」ほどに物を言う

A 口      B 目      C 腕      D 身      E 鼻

- ア 目もことば同様心を表す。
- イ 自分の悪行のために自分が苦しむこと。
- ウ かしこく、すばしいこと。
- エ うつとうしく、じやまなもの。
- オ 張り合いがない、ききめがない。

Ⅱ 次の各設問に答えなさい。

問 1. 次の英語を日本語になおしなさい。

1. I have just been to the station.
2. It is always difficult to find good friends.
3. They started studying written Japanese.
4. She became more and more nervous.
5. What a noise they are making!
6. What makes me happy is your kind words.
7. I found it important to see things from other people's points of view.
8. I'd like you to finish it as soon as possible.
9. We may call him a first-class baseball player.
10. It is necessary for us to do something for the earth.

問 2. 次の日本語を英語になおしなさい。

1. 私は先週、その店で紙を 10 枚買いました。
2. 私の古い友人が来月、仙台から東京にくる予定です。
3. 母は毎日朝食を作るために早く起きます。
4. 昨日の 8 時にあなたたちはここで何をしていましたか？
5. この船が何と呼ばれているか知っていますか？

問 3. 次の言葉について、あなたの考えを 5～6 行程度の英語で答えなさい。

**What can music do for the people in trouble?**



⑤	③	①	
			ことば
			意味
	④	②	
			ことば
			意味

I・2 解答欄


設問十


設問九


5


設問八

--

設問七

--

設問六

Ⅱ 解答欄

専攻	
受付番号	
氏名	

得点

問1

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

問2

1

2

3

4

5

問3

-----

-----

-----

-----